

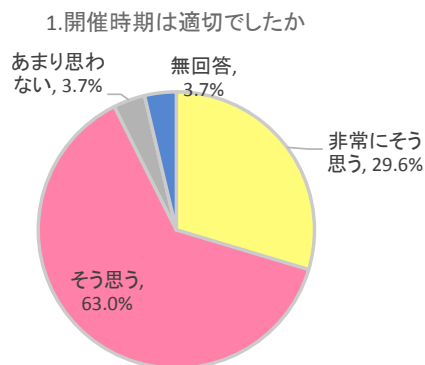
平成28年度在宅看護論実習施設連絡会 アンケート集計結果 (回収数:27)

参加校：大学5校、短大1校、専門学校28校 合計34校 回収率 79.4%

1.開催時期は適切でしたか

	人数	割合
非常にそう思う	8	29.6%
そう思う	17	63.0%
あまり思わない	1	3.7%
思わない	0	0.0%
無回答	1	3.7%

・もう少し早くてもよい

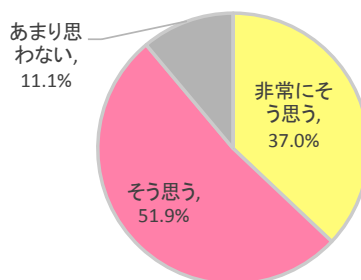


2.開催時間は適切でしたか

	人数	割合
非常にそう思う	10	37.0%
そう思う	14	51.9%
あまり思わない	3	11.1%
思わない	0	0.0%
無回答	0	0.0%

・もう少しGWの時間がほしい。ディスカッションの時間が短かった (5)
 ・発表時間が長いところがある

2.開催時間は適切でしたか



3.意見・感想等

- ・ディスカッションは有意義だった。情報交換ができてよかった (5)
- ・養成課程による相違点(特に謝金)や共通点が見えて有意義だった
- ・訪問看護ステーションの方々の意見をもっと聞きたい。アンケートを取るなどしてみるのも方法かもしれない (2)
- ・もう少し時間があると良い。訪看の方と学校との意見交換がなかなかできないため。
- ・ステーションの方々の大変さがわかった
- ・集計以外、具体的な資料がほしかった
- ・グループワークという新しい形式で意見の共有ができた。施設調整や謝金など不公平にならない、ある程度統一できるような仕組みを考えていく必要性を考えていた
- ・意見交換は学校の偏りができたと思う。同じ学校の者が集中してしまったので、バラけても良かった。
- ・悩みながら運営しているので、機会があればぜひまた行いたい。
- ・ワークは有効。内容について話し合い、具体的な進展を考えるなら年に2回位にしてテーマ等継続的にしてはどうか。
- ・謝金について、学校とSTが担う問題なのか疑問に思う。学生の学ぶ機会を平等にしてほしい。県は人材育成・人材確保の予算を、学生受け入れSTに対し割合で支払うべきであると考え。指導者研修費用も全てST持ち出しで、2名配置が望ましいなどとは無責任ではないか。
- ・実習先の確保が難しい。(STの整備・人員なども) 謝金を上げた方がよい。
- ・GWの内容等、具体的な解決策となることは、ぜひ県へ要望してもらえるとありがたい。(補助金など)
- ・実習の内容について、どこの学校も苦慮しているのがわかってよかった
- ・養成施設、実習先との連携のために今後も必要。

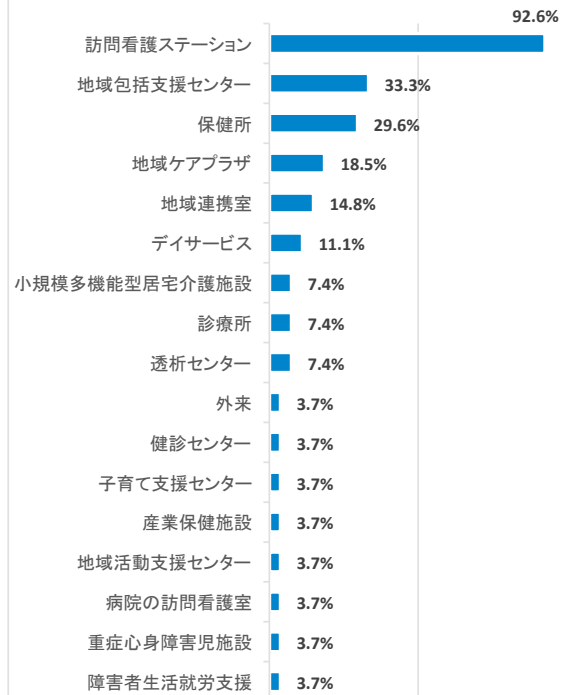
4.利用している実習施設は

	人数	*	**
訪問看護ステーション	25	92.6%	36.8%
地域包括支援センター	9	33.3%	13.2%
保健所	8	29.6%	11.8%
地域ケアプラザ	5	18.5%	7.4%
地域連携室	4	14.8%	5.9%
デイサービス	3	11.1%	4.4%
診療所	2	7.4%	2.9%
小規模多機能型居宅介護	2	7.4%	2.9%
透析センター	2	7.4%	2.9%
産業保健施設	1	3.7%	1.5%
地域活動支援センター	1	3.7%	1.5%
障害者生活就労支援	1	3.7%	1.5%
健診センター	1	3.7%	1.5%
病院の訪問看護室	1	3.7%	1.5%
外来	1	3.7%	1.5%
重症心身障害児施設	1	3.7%	1.5%
子育て支援センター	1	3.7%	1.5%
計	68		

*回答教育機関(27)に対する割合

**利用実習施設全体(62)に対する割合

4.利用している実習施設は



5.今後希望する内容やテーマ

- ・地域包括ケアシステムについて (3)
- ・在宅看護論のカリキュラム構築 (2)
- ・もっと情報交換ができると良いです (2)
- ・全く同じ主旨で複数開催すると有意義だと思う
- ・他職種連携

6.所属する教育機関

専門学校	20	74.1%
短期大学	2	7.4%
大学	4	14.8%
訪問ST	1	3.7%

6.所属する教育機関

